

道総研森林研究本部
研究成果選集

2020



2024

地方独立行政法人北海道立総合研究機構（略称：道総研）では、2025年3月をもって第3期中期計画期間を終了し、4月から始まる第4期中期計画では、第1期から第3期までの15年間に培ってきた知見や技術を複合的・効果的に活用して、道内の林業や木材産業の振興、道民生活の向上に貢献できるよう取り組んでいきます。

さて、この成果選集では、森林研究本部（林業試験場・林産試験場）が第3期の5年間に取り組んだ森林・林業、木材産業に関する試験研究の中から代表的なものを紹介しています。

研究内容に関するご質問、技術支援のご依頼、受託研究・共同研究のご相談は、巻末の連絡先にお問い合わせください。

第3期中期計画において森林研究本部が取り組む研究推進項目

地方独立行政法人北海道立総合研究機構第3期中期計画から抜粋

（ウ） 森林に関する研究推進項目

a 森林資源の循環利用による林業及び木材産業の健全な発展

○ 森林資源の循環利用を推進する林業技術の開発

森林資源の循環利用を推進するため、ドローンなどのUAVを用いたりリモートセンシング技術やICT等の先端技術を活用しながら、着実な再造林に向けた優良種苗の効率的生産技術、人工林・天然林の適切な森林管理技術の高度化、気象害や生物害のリスクを回避する森林整備技術の開発及び原木の安定供給と木製品に至るサプライチェーンの最適化に向けた生産・流通システムの構築に取り組む。

- ・ 森林資源の適切な管理と木材の生産・流通の効率化のための研究開発

○ 木材産業の競争力向上と道産木材の利用技術の開発

道産木材・木製品の競争力の向上と利用拡大を図るため、CLT（直交集成板）をはじめとする建築構造材や内外装材などの生産・加工技術の高度化、木材・木製品の性能・品質向上技術、木質材料の新たな利用技術などの開発に取り組む。

- ・ 木材産業の技術力向上のための研究開発

○ 再生可能エネルギーなどの安定供給と高効率エネルギー利用システムの構築

道内に賦存する木質バイオマスの再生可能エネルギー資源としての効果的な利活用を図るため、エネルギー特性や地域特性に対応した高度利用技術及び安定供給技術に関する研究開発に取り組む。

- ・ 再生可能エネルギーなどの利活用と安定供給のための技術開発

b 森林の多面的機能の持続的な発揮

森林の多面的機能の持続的発揮や樹木・特用林産物の活用を図るため、防災林・環境林の整備技術、水土保全や生物多様性に配慮した森林流域管理技術及び保健休養機能の活用技術を開発するとともに、有用樹木の選抜と増殖・管理・利用技術及びきのこの品種と生産・利用技術の開発に取り組む。

- ・ 森林の多面的機能の発揮と樹木・特用林産物の活用のための研究開発
- ・ 地域・集落を維持・活性化するための地域システムの研究開発
- ・ 災害発生後の応急対策及び復興対策手法の開発
- ・ 災害の被害軽減と防災対策手法の開発